



金融広報中央委員会（知るぽると）インタビュー はじめての金融教育

学校におけるニーズが高まっている金融教育。小学校では学習指導要領の「消費者に関する教育」の充実が図られる、高校では家庭科で金融経済教育が必修化されるなどの動きが出てきています。その一方で、「そもそも金融教育とは何か?」「どのように指導をしたらよいか?」と悩んでいる先生もいらっしゃるのではないのでしょうか。

今回は、金融教育の体系書として全国の学校で活用されている「金融教育プログラム—社会の中で生きる力を育む教育とは—」を発行した、金融広報中央委員会（知るぽると）の河合真児さんに、金融教育のニーズの背景や、小学校で実践できるアプローチについてお話を伺いました。

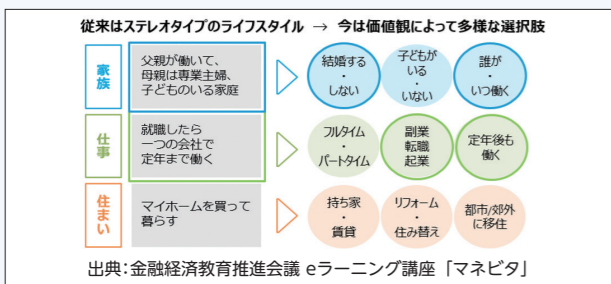


金融広報中央委員会事務局 河合 真児

小学校の金融教育について

— 金融教育のニーズが高まってきている背景について教えてください。

背景には、ライフスタイルの多様化があると思われます。従来は、父親が働いて母親が専業主婦で、会社に就職したら定年まで勤める…という形が一般的でした。ですが、社会や経済環境の変化、平均寿命の延伸、価値観の変容などにより、今ではライフスタイルに多様な選択肢が生まれています。



他には、金融分野のデジタル化もあります。元々金融分野はテクノロジーを多用している産業でしたが、2000年代に入ってスマートフォンが登場してからは、特に個人の金融をめぐる環境が大きく変わりました。具体的にいうと、スマートフォンを使って簡単に送金できるようになったり、クラウドファンディングができるようになったりということがあります。また、ここ最近ではさまざまなIT技術と結びついて生まれた新しい金融サービス、いわゆるフィンテック（※1）が進展しています。このように、金融分野は無限の広がりを見せていて、人々の暮らしを大きく変えてきています。

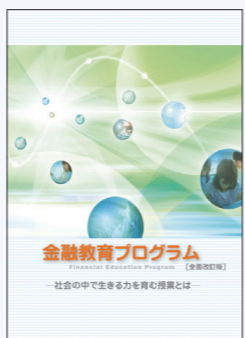
（※1）Finance（金融）とTechnology（技術）を組み合わせた造語。

したがって、社会・経済構造の変化が激しく、選択肢も多い社会の中で生きる子どもたちには、社会の仕組みを知り、自分で考え、判断していく能力がますます重要になってくると思います。そのためには、社会の仕組みに関心を持ち、金融リテラシー（お金や暮らしに関する知識）をしっかり身につけることが必要です。そうした流れから、若いうちからの金融教育が拡充されています。

— 金融教育とは具体的にどのような教育なのでしょう？

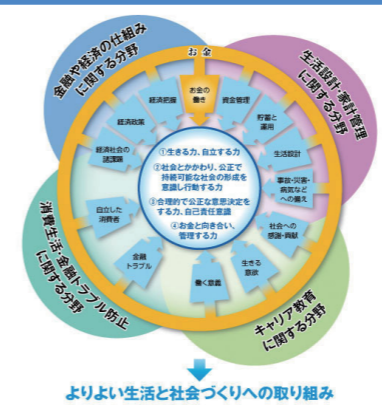
金融教育とは、お金や金融のさまざまな働きを理解し、自分の暮らしや社会について深く考え、価値観を磨きながら、より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて主体的に行動できるようにするための教育です。

私たちが発行している『金融教育プログラム—社会の中で生きる力を育む授業とは—』（以下、『金融教育プログラム』）では、金融教育を「生活設計・家計管理に関する分野」、「金融や経済の仕組みに関する分野」、「消費生活・金融トラブル防止に関する分野」、「キャリア教育に関する分野」という4つの分野に分け、身につけるべき教育目標の概要を分野ごとに整理しています。（資料1）



▲『金融教育プログラム—社会の中で生きる力を育む授業とは—』

資料1：金融教育の4つの分野



出典：金融教育プログラム「学校における金融教育の年齢層別目標」【改訂版】p.2

— 各発達段階ごとに学ぶべき内容を教えてください。

小学校の低中学年、中学校、高校の発達段階に沿った目標「学校における金融教育の年齢層別目標」が参考になると思います。

資料2は金融教育の4つの分野のうち、「生活設計・家計管理に関する分野」の年齢層別目標の一部です。

小学校の低学年は、集団や社会のルールを守る態度を身につけたり、善悪の判断・規範意識などの基礎を形成したりする段階です。そのため、まずはものやお金の価値を知り、お金を大切にすること、そしてほしいものがすべて手に入るわけではないことを学んでいくことが重要です。高学年になると、集団における役割や責任を担う場面が増えていくので、その体験学習を通じて実社会への興味関心を育てることが効果的ではないでしょうか。そしてその中で、お金には限りがあるという理解し、計画的なお金の使い方を学び、プリペイドカード、キャッシュレス決済についても理解を深めていくことが必要だと思います。

資料2：年齢層別目標

分野目標	年齢層別目標		
	低学年	小学生 中学年	高学年
A 生活設計・家計管理に関する分野 A 資金管理と意思決定 ● 使える資源には限りがある（予算制約）ことを理解する ● 限られた予算の下でよりよい生活を築く意義を理解し、実践する技能と態度を身につける ● 資金管理に関する意思決定の基本を理解し、実践する態度を身につける	● ものやお金の価値を知り、大切にすること（生活、道徳） ● ほしいものをすべて手に入れることはできないことを知る	● ものやお金には限りがあることやお金の大切さを理解する（社会） ● お金の使い方について見直ししながら、自ら節度を守り節制に心掛ける（道徳） ● プリペイドカードなどは金銭同様に大切に扱う必要があることを理解する（家庭） ● 必要性を考えて、計画を立て、それに沿って買い物ができる（家庭） ● 商品の選び方を知り、工夫して買い物ができる（家庭）	● ものやお金には限りがあることを理解し、よりよい使い方を考える（家庭） ● お金の使い方について見直ししながら、自ら節度を守り節制に心掛ける（道徳） ● プリペイドカードなどは金銭同様に大切に扱う必要があることを理解する（家庭） ● 必要性を考えて、計画を立て、それに沿って買い物ができる（家庭） ● 商品の選び方を知り、工夫して買い物ができる（家庭）
	● お金の使い方について自分なりの考え方をもち、意思決定する態度を身につける		

分野目標および年齢層別目標は、学習指導要領または同解説に示された教科等の内容を反映させていますが、記述されていないものもあることにご留意ください。
・年齢層別目標のうち末尾に教科等名が記載されたものは、学習指導要領または同解説に照らして、その内容を学習する教科等を挙げています。
・年齢層別目標のうち末尾に教科等名が記載されていないものは、各教科における発展的な学習や、総合的な学習の時間および特別活動において実践されてきたものなどを中心にとりまとめたものです。

※金融教育プログラム「学校における金融教育の年齢層別目標」【改訂版】p.3を参考に弊社作成

低学年

お金は大切で、限りがあるんだ。



▲低学年で得た知識を高学年に展開していく

高学年

プリペイドカードもお金と同じで、計画的に使うことが大切なんだ。



— 小学校の先生方が、金融教育を一番初めに取り入れやすく、効果的な教科はあるのでしょうか？

低学年では、生活科や道徳などの授業にお金や働くことの大切さなど、金融教育の基本的な要素を取り入れていき、高学年では社会科などに絡めていくのが適当だと思います。

実際に沖縄県の小学校では、地域の方々の協力を得て、子どもたちが生活科で育てたキュウリを地元の売店で売ってもらって実践をされた先生がいました。小学校の授業は、担任の先生がすべての教科を担当することが多く、お金を各教科に関連づけて授業を実施しやすいのが特徴です。この実践の話でいうと、当然そこにはお金の計算という算数の要素が入ってきたり、販売するための看板をつくるという図工の要素が入ってきたり…。さまざまなことに取り組みながらお金の大切さに気づける授業ができます。金融教育は教科内にとどまらず、ぜひ教科間で連携をしていただくとよいのではないのでしょうか。

— 金融教育は学校や地域の方々だけではなく、家庭との連携も必要になってくるかと思いますが。

そうですね。金融教育は家庭で得られる知識・体験が多いこともあり、保護者の方とのやり取りが最高の教材でもあると思います。たとえば、学校で学んだ知識（お

金には限りがある)をふまえて、お小遣いの額を上回るほしい物があつた場合には数回分を貯めて使うなど、家庭を学校で学んだ知識の「実践の場」にすることができると理想ですね。

貯蓄・消費者行動の実践に結びつくことを期待して、家庭と連携してお小遣い帳を活用してもらったり、買い物に行った際に限られた予算の中で品物を選んでいる保護者の方の様子を子どもに見せてもらったりすることで、子どもの金銭感覚を養うことができると思います。さらに、家計にはさまざまな公共料金があるので、水道料金などの話を一緒にすることでお金と社会の関係についても興味関心をもってもらえるのではないのでしょうか。



▲金融教育は学校・家庭・地域との連携が必要

—— 子どもによって家庭環境が異なるため、学校での金融教育が難しいとお考えの先生も多いと思います。

たしかに、それぞれの家庭の事情を気遣いながら授業をしなければならぬのが難しいという声をよく聞きます。先生によっては連絡帳を活用して、家庭状況についてのアンケート(お小遣いはいくらもらっていますか? 家の人とお金の話をしていますか? など)を実施してから授業を行ったというケースも聞きます。そのように事前に保護者とコミュニケーションをとるのも一つの手ではないのでしょうか。

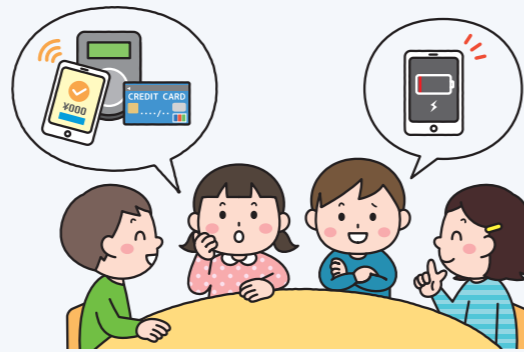
金融教育の変化について

—— 近年はキャッシュレス化が進んでいますが、金融教育にも変化が生じているのでしょうか?

先ほど、金融分野のデジタル化のお話をしましたが、お金の形が変わっても、お金やものを大切に使うべきだということや、収支を管理する必要があるということに変化はありません。ただ、お金の仕組みには変化が生じてきているので、そこは子どもにしっかりと教える必要があると思います。

キャッシュレス決済に関する理解度アンケートを実施し、それを基に授業を展開している先生もいます。実際の授業では、キャッシュレス決済のメリット(現金に比べて簡単に支払いができる・お釣りがない)やデメリット(停電のときに使えない・お金を使った感覚がもちに

くい)についての議論などを行っているようです。大人が思っている以上に子どもはキャッシュレスに詳しいです。最近はキャッシュレス決済やプリペイドカードの使用が犯罪やトラブルの原因になることも増えてきているので、今後は金融教育の中でそのような危険性も教えていくのが重要になると思います。



金融教育の教材について

—— 知るぽるとさんが提供している「おかねのね」という小学生向けコンテンツは、一人一台端末が普及してきた今、かなり活用できそうに思います。ICTと金融教育の関係についてはどのようにお考えでしょうか。

ICT端末と金融教育は、なじみやすいと思いますね。先ほど申し上げたキャッシュレス決済やお小遣い帳も、ICT端末を使うことで、収支の計算が簡単にできます。金融教育関係者との話や、海外の事例などを見ていると、やはり若い世代に金融教育をしていくにはデジタル、とりわけクイズやゲームを活用するのが効果的だと感じます。

ゲーミフィケーション(ゲーム化)という言葉がありますが、金融教育においてもいかにゲーム的な要素を入れるかが重要といわれているので、私たちとしても時流に乗った教材を常に提供していきたいです。

—— 金融教育ではどのような教材を使えばいいのか、迷っている先生もいらっしゃると思います。

私たちはホームページで、先ほどの「年齢層別目標」に沿って作成した実践例や、お金の知恵を学べるリンク集「金融学習ナビゲーター」を提供しています。リンク集では、連携している各団体、NPO法人が提供している金融学習用の教材をまとめています。分野・分類別の検索はもちろんのこと、教材を種類別(読み物・映像教材など)に検索もできるので、教材に迷われたときにぜひこのナビゲーターを活用していただきたいなと思います。

—— 実践例や教材だけでなく、先生向けのセミナーも開催されていますね。

「先生のための金融教育セミナー」という形で、小中高の金融教育の実践事例を、担当教員の解説を交えて紹

お金の知恵を学ぶリンク集 ～金融学習ナビゲーター～

お金の知恵を学ぶリンク集～金融学習ナビゲーター～は、金融に関する消費者教育に携わる機関・団体・NPO法人等が提供している金融学習用の教材や事業を、対象者別にまとめて紹介しています。各団体等のホームページにもリンクしています。詳細は「はじめに」、「ご利用について」をご確認ください。

目次

- はじめに
- ご利用について
- 対象者別に探す
 - 小学生(低学年)向け
 - 小学生(中学年)向け
 - 小学生(高学年)向け
- 団体・法人等別に探す
 - (一社)金融財政事情研究会
 - 金融庁
 - (NPO法人)金融知力普及協会
 - (財)国民生活センター
 - (NPO法人)証券学習協会
 - 証券知識普及プロジェクト(日本証券業協会、日本取引所グループ、東京証券取引所、投資信託協会ほか)
 - 消費者庁
 - (一社)信託協会
 - (一社)生命保険協会
 - (公財)生命保険文化センター
 - (一社)全国銀行協会

▲知るぽるとホームページにある「金融学習ナビゲーター」金融教育用の教材を対象者(小学校低・中・高学年)別に探すことができる

介する動画をオンデマンドで配信しています。先ほど、生活科での「地元のお店にキュウリを売ってもらう」という実践を紹介しましたが、2022年度新規配信セミナーではその先生(沖縄県・山本銀平先生)の実践例をご紹介します。金融教育のヒントを得たい先生には、ぜひ見ていただきたいと思います。

—— これまでのセミナーに参加された先生方からはどのような反応がありましたか。

先ほど触れましたが、やはりお金について教えるとなると、お小遣いの渡し方など、家庭環境の違いが出てくるので、気遣いながら授業をするのが難しいという声

金融教育についてもっと学びたい方はこちら!

先生のための金融教育セミナー

先生のための金融教育セミナー

現在教員による授業実践

金融教育の専門家による最新のヒント

2022年 10月3日(日)～2月28日(火)

https://www.sensei2022.jp/

今の時代に求められるテーマの動画をオンデマンドで配信します。【募集対象】学校・大学などの教員教育委員会指導主事教職を目指す大学生・大学院生



マネビタ

わかりやすいお金の知識

マネビタ MONEY VITAMIN

人生を豊かにするお金の知恵

「お金の勉強、始めませんか?」

金融経済教育に関わる官庁と団体が連携して作成した動画教材です。

金融経済教育に関わる官庁と団体が連携して作成した動画教材です。

